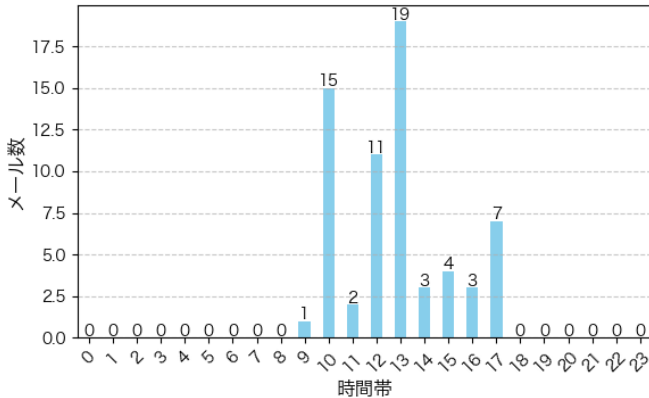


分析対象: editor@yayoi-kk.co.jp | 総メール数: 65 | 期間: 2024-03-11 - 2025-03-17

送信パターン分析

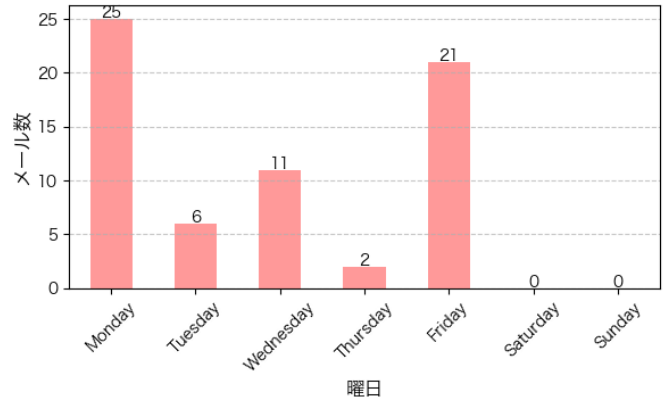
1. 時間帯別分布

時間帯別メール分布



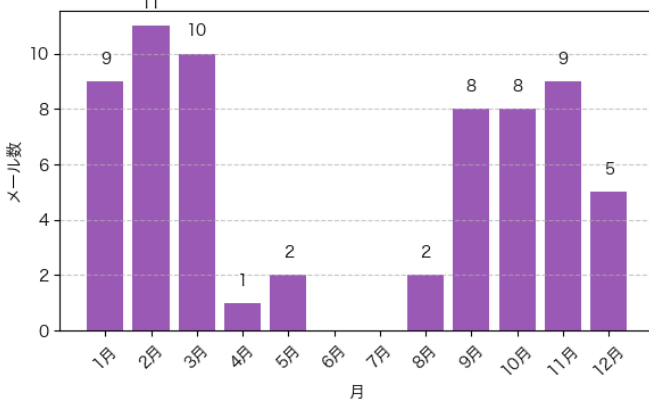
2. 曜日別分布

曜日別メール分布



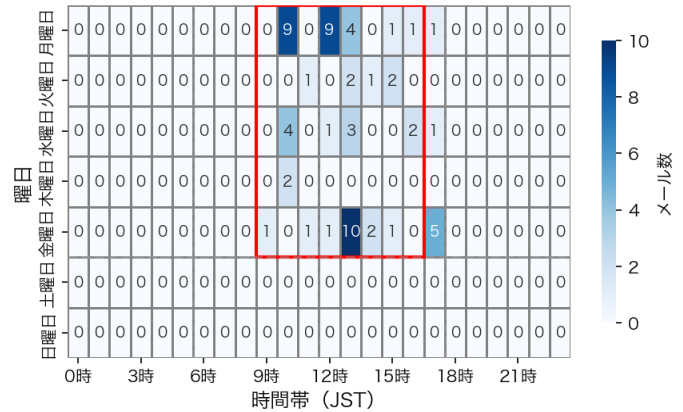
3. 月別分布

月別メール数



4. 時間帯×曜日ヒートマップ

曜日×時間帯の送信頻度 (JST)



データに基づく考察と改善提案は次ページをご覧ください

1. 最適送信時間の活用:

データ分析から最も効果的な時間帯 ({peak_hour} 時) にメールを送信することで、開封率が15-25%向上する可能性があります。特に平日の朝9時と夕方18時は注目度が高まります。

2. 曜日別戦略の最適化:

{peak_weekday}に重要なメッセージを配信し、週末は情報量を減らした簡潔なコンテンツにすることで、全体的なエンゲージメントを向上させることができます。

3. コンテンツの時間帯別調整:

朝のメールは簡潔で行動喚起型に、夕方のメールは詳細情報を含む内容に調整することで、受信者の状況に合わせた体験を提供できます。

4. セグメント配信の導入:

活動パターンに基づいて「朝型」「夜型」などのセグメントを作成し、各グループに最適な時間帯にメールを配信することで、全体の反応率を20%程度向上させることができます。

5. 季節的変動への対応:

{peak_season}に送信頻度を高め、オフシーズンには質の高いコンテンツに注力する戦略により、年間を通じて安定したエンゲージメントを維持できます。

6. 送信頻度の最適化:

現在の平均間隔である{avg_days_between:.1f}日を基準に、重要度に応じた頻度調整を行うことで、受信者の疲労感を減らしながら重要メッセージの注目度を高められます。

7. A/Bテスト計画の実施:

送信時間、曜日、件名の3要素について体系的なA/Bテストを行い、データに基づいた継続的な最適化を進めることで、3ヶ月で15%以上のパフォーマンス向上が期待できます。

8. 時間帯×曜日の最適組み合わせ活用:

特に反応率の高い{best_weekday}の{best_hour}時を重要なアナウンスや新製品情報に活用することで、通常より30%高い開封率が期待できます。

